

「業務」でなく、ミッション

～団塊ジュニア世代の「ポジティブ介護」の挑戦～

吉岡正善（看護師）

大熊由紀子先生、加藤忠相先生、菅原健介先生、ご講義ありがとうございました。
加藤さん、健介さんの講義は何度か聞かせていただいておりますが、毎回感じるがあります。

まず1つは、介護の仕事が本当に素晴らしいものであると再認識させられること。
2つ目として「専門職」とはどのような役割が持てるのだろうか？
専門職だからこそ、高齢者の個性の弊害になってはいないか？ということ。
3つ目は小規模多機能の可能性が無限だということです。

1つめに関してはやはりマニュアルで縛られた「業務」という表現ではなく、加藤さんのようにミッションという表現方法はとても好きです。
介護職の方が仕事に対して満足感・充実感・誇りが持てるのではないかと思います。
その輝いている介護職の方を見るから、介護の仕事がとても素晴らしいものだといつも感じさせられます。
これは個人的な意見ですが、施設で働く介護職の方が満足感・充実感・誇りを持っているように見えたことは一度もありません。

次に2つ目ですが、お二方の小規模多機能の講義を聴くと感じてしまうジレンマです。
専門性を出すと相手を管理したり教育したりしてしまう傾向になってしまうため、看護師としてダメだとは思いますが、自分の中で整理ができにくくなっているのが正直なところ
です。
専門職として関わるということがとても難しい自分の課題になってきています。

3つ目は何でもありの小規模多機能は本当に魅力的で大切なのは、思いのある管理者・経営者が行うことが必須であるということだと思えます。
自分が小規模多機能を知ったのは加藤さん・健介さんと知り合ってからなので小規模多機能は二人がやっていることが当たり前とと思っていましたが、実際はルール・マニュアルに縛られた柔軟性のない小規模多機能が圧倒的に多いという現実があることを知りました。
思いのある方がやらなければ、素晴らしい制度もサービスも意味をなさないということが明確になると思いました。
これからの小規模多機能の発展に加藤さん・健介さんが大いに活躍されることを心から願っています。これからも若手の先頭に立って頑張っ、もっと若い私たち世代を引っ張って行ってください。

ご講演ありがとうございました。